



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 勉強会開催

### 「ん？うちの子、ちょっと心配？」

### と思ったら

帷子顕二郎先生、山崎育先生のお二人を講師にお迎えし、8月6日(土)、日光市今市中央公民館小ホールで勉強会を開催しました。今回は26名の参加者があり、16名の方からアンケートの回答をいただきました。以下、アンケートのまとめを掲載します。

#### 1. 勉強会を何で知りましたか

- ①知人・友人 [3名]
- ②チラシ [9名]
- ③その他 [新聞など・4名]

#### 2. 印象に残った点や感想などを自由にお書き下さい

心の弾力性を高めるお話がとても勉強になった◇子どもの話を聞くということ、大人が答えを出すのではなく、問いかけをするということが印象に残った。心がけたいと思う◇子どもがストレスを持っているときの親の対処法など、自分の勉強になった◇質問コーナーは自分のことにも当てはめ、参考になった◇スタッフのお手伝いの仕事があったので、山崎先生のお話が聞けなかったことが残念◇帷子先生のファーストエイドの話が勉強になった◇ファーストエイドの具体例はわかっている、なかなか実行できない◇山崎先生のメッセージ変換表のマンガのように生活したい◇話を聞くだけでなく、体に触れてやることを知った◇子どもの学びは親も一緒。子どもを認め、一緒に育つこと◇子ど

1949年12月26日午前8時に今市を襲った直下型地震の記念碑です。

碑には「この町を中心に二町九ヶ村が突如として激震に襲われた。山は崩れ大地は裂けて井水は涸れ、家屋は傾き、或いは倒れ、人名も奪われた」とあります。報徳会館の敷地にあります。いちど訪れてみてはいかがでしょうか。



もの気持ちを落ち着けて送り出し、疲れて帰ってきた心を落ち着かせてあげること◇山崎先生の最後のお話で、お母さんの気持ちの変換がすごく参考になった。こんな風に変換しちゃっていいんだなと少しホッとした◇演習問題の①と②、子どもに対しての対応と自分がしてほしい対応、私の場合は両方、「否定的な言葉を言わない、言ってほしくない」でした。具体的に考えたことがなかったため参考になった◇親の心が子どもに伝わるだろうと、改めて感じた。子どもの心の不安は親がしっかり受け止めていかなくてはと思う◇プランニングの重要性…段取りの悪さ・間に合わない、結果できていないことが多く、どうさせたらよいか、考えさせられる◇子どものストレスの乗り越えさせ方…何かあったらしいときには咳払いをするようなことが多くあり、のどに何か詰まった気がするらしく、どうしたら乗り越えさせられるのか、考えさせられる◇親が言いがちなセリフなど、もう一度冷静に見つめなおす必要があると思う。まずは親からだなと思う。前向きになれた◇ストレスケアの話、とてもためになった◇保護者同士が知り合いになるよい機会なのだわかった。困っている保護者の方がいたら紹介します。(教員)◇不登校だった時期のトラウマがあるようで、どうしたら気持ちを楽にさせてあげられるのか親も悩み中でした。今日の勉強会で、少し気持ちがすっきりした。家庭の中でも実践していきたい

#### 3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいですか

ペアレントトレーニングについて◇発達障害児を持たない

## 目次

「勉強会」の報告	1
お知らせ	2
活動日誌	3
又ミヤーン三味線の秘密	3
こんな本はいかが？ (16)	4

## 居場所のひとこま

作って食べよう！のメニューを紹介します。【6月】ビーフシチュー・パン・サラダ、【7月】ジャージャー麺・フルーツポンチ、【8月】三色丼とわかめスープ…それぞれ工夫して作ってます。時々は「おやつ作り」。9月はあんみつを作りました(写真)。





# ☆ 活動日誌

- 6月26日 (日) ベリー会
- 6月27日 (月) 発達障がい支援者連絡会
- 6月28日 (火) 居場所昼食会 (つくって食べよう!)
- 7月 6日 (水) 理事会 (第40回)
- 7月 9日 (土) サイエンス・カフェ (第32回) 「放射線って何だろう」
- 7月11日 (月) 茶話会 (第25回)
- 7月17日 (日) ベリー会
- 7月20日 (水) 理事の登記完了 (書類およびFDを宇都宮地方法務局へ郵送)
- 7月24日 (日) 元気up' K I Z U N A プロジェクト (主催: 今市青年会議所) に参加
- 7月24日 (日) ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 7月26日 (火) 居場所昼食会 (つくって食べよう!)
- 8月 4日 (木) ~ 7日 (日) サイエンスパーク (鬼怒川温泉 あさや) サポート
- 8月 5日 (金) ~ 7日 (日) 科学教育研究協議会 全国研究大会 栃木大会 に参加
- 8月 6日 (土) 子育て・親育ち勉強会 (第8回) 「ん? うちの子、ちょっと心配?」と思ったら
- 8月23日 (火) 居場所昼食会 (つくって食べよう!)
- 8月28日 (日) ベリー会
- 8月28日 (日) ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 9月 7日 (水) 理事会 (第41回)
- 9月10日 (土) サイエンス・カフェ (第33回) 「人間はなぜだまされるか」講師: 田原博人さん
- 9月12日 (月) 茶話会 (第26回)



8月23日のメニューは  
三色丼

## 子どもの居場所・学びサポート

夏休み、NPO法人「だいじょうぶ」と連携し、「居場所」はにぎやかでした。若いスタッフとの交流、ゲーム、スポーツなど子どもたちは楽しい時間を過ごせたのではないのでしょうか。

学びサポートは夏休み中も毎週金曜日午後5時から市民活動支援センターのホールで活動しました。夏休みの宿題を持参し取り組む子、自由研究をあれこれ考える子などさまざまです。学習を終えたあとは、ゲームで盛り上がります。

今年の夏も曇り空が多く、夏の星座をじっくり観察するチャンスがありませんでした。8時を過ぎると木星が上がってきます。9月16日の金曜日は雲が少なく、月のかたわらで明るく光る木星を望遠鏡で見ることができました。小さな双眼鏡でも木星の周囲を回る4個の衛星を見つけることができます。ガリレオが400年前に望遠鏡を向け、発見した衛星です。木星の周囲をぐるぐる回っているの、毎日位置が変わり、この観測によってガリレオは地動説を確信したといわれています。夜9時頃、東の空に堂々とした姿を見せる木星をぜひ眺めてください。(手塚)

### 又ミャーンの「ぬみゃん三味線の秘密」

続きは以下のアドレスへ

<http://www.nantonakuno.net/kanri.html>

又ミャーンの「なにわマンガ」は随時掲載です。

カラーでご覧になりたい方はなにわホームページを。





## 私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

## こんな本はいかが？ その16

### 「渚にて」 (ネヴィル・シュート 1957年 佐藤龍雄:訳 創元SF文庫)

高校生の夏休み、鼻の手術で入院しているとき読んだ。もう40余年前になる。核戦争後の世界を描いた名作と言われ、映画も作られている。激しい原水爆戦があり、生き残った米海軍原子力潜水艦がオーストラリアに寄港する場面から話が始まる。北半球は死滅、南半球にも死の灰が押し寄せる。合衆国からの謎の通信というミステリーを軸に、いつもどおりの人々の暮らしが描かれる。いっぽうで、放射能による身体の不調を感じ、運命を受け入れて政府から配られた安楽死薬を飲む家族がある。核による人類滅亡を描いたサイエンスフィクションである。読後、人はこれほど静かに終末を迎えられるものだろうか、長い間、ぼんやりと考えていた。

昨年暮れ、創元SF文庫の新訳を本屋で見つけ、正月に読んだ。人類滅亡という重たいテーマより、以前に読んだときは印象に残らなかった、艦長と女性の恋や、危険な自動車レースに夢中になる科学者の描写が興味深かった。なるほど人間ははこういうときでも、深刻にならずにやっていけるのかなと思ひ、アメリカ人は最後のさいごまで実用主義なのかとも考えた。

死の灰が迫る中、庭や畑の手入れをする夫婦が描かれている。晴天のある日、水仙が花を咲かせた。「きっと絵のようにきれいになりそう」と妻が言う。そして、秋が来るまでの水仙の手入れについての会話がはずむ。5月の連休の頃、福島原発事故で地表に積もっているはずの放射能を気にしながら、庭の手入れをした。新芽でうっすら緑になった近くの林を眺め、お茶を飲んでいるとき、ふと、正月に読んだこの場面を思い出した。SFが現実になってしまったと思った。

人は絶望しているときでも、未来に希望をつなぎ、夢を見ようとする生き物なのかもしれない。日常をふつうに繰り返すことは、未来を信じるための大切な儀式なのだろう。原発事故の前に読んだとき、登場人物の脳天気さが気になったけれど、3月以後、「人類の最後なんて、こんなものかもしれない」と妙に納得している。イギリス人が書いた、アメリカンテイストSFメロドラマ。あまり深刻にならずに読むのがよいと思う。(手塚)

## 会員について

正会員：45

賛助会員：18

団体会員：4

入会金はありません。

年会費(一口)：正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円



「なんにわ」活動の多くは会費でまかなわれています。学校長期休業中の子どもの受け入れ等で、「居場所」を開く時間も長くなり、必要経費が切迫しています。

会員の継続をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。

## なんとなくのへや

1か月ほど前だったか、高根沢町の小学校にネットワーク型環境放射線モニタリングシステムを整備したという新聞記事を見ました。先日、このシステムを開発した会社の社長さんと話す機会があり、「よく短い期間で開発できましたね」と伺ったところ、「いや、じつは震災の前から学校などには放射線のモニタが必要と思ひ、開発を進めてきたのですよ」という答えでした■「パソコン」という言葉が広がる前、「マイクロコンピュータ」と呼ばれていた黎明期からPCに注目し、技術開発に力を入れてきた方なので、「さすが」と感心しました。高根沢町は収集したデータをオンラインでホームページに公開しています(<http://www.g-sense.jp/>)■3月以来、放射能・放射線について話す機会が増えました。7月に開いた「サイエンス・カフェ 32 放射線って何だろう」は多くの方が集まり、熱心な話し合いがなされました。今回の原発事故で、普通の生活に入り込んでしまっただけで済まない量の放射能。これから長い期間悩まされることとなります。観測された空間放射線量や被ばく量などの記録は後世に残すべきデータです。きちんと較正された自動装置は大きな助けになります■「じょせん」と入力しても、私の使う変換ソフトは「除染」と変換してくれません。いままで聞いたことのない放射能除去作業が、注目されています。あわせて、食物の汚染監視システムの確立、子どもの健康チェック体制の整備、再度の放射能大量放出に備えた対策構築は今後の大きな課題ではないかと思ひます。(T)